

地域経済の活性化を最終目的に、IT経営を推進するプロフェッショナル

ITコーディネーター

野村 真実 先生



日本IT経営センター 有限責任事業組合  
事務局長／野村IT経営支援オフィス 代表  
ITコーディネータ

野村 真実 先生

1962年生まれ。鹿児島大学理学部卒業。1987年から、日本ユニバック（後の日本ユニシス）にて、金融機関のシステム構築・運用支援を経て新企画業務に従事。2003年ITC補の資格を取得して2004年より首都圏南西経営応援隊の湘南地区立上、千葉県経営応援隊の立上等で活動開始。2007年の5月に日本ユニシスより千葉IT経営支援LLP理事長として独立し、千葉IT経営応援隊ではプロジェクトコーディネータとして、2007年度の企画から推進中。2007年7月より、日本IT経営センターLLP事務局長に就任。

PROFILE

連載企画「今月のプロフェッショナル」の第4回は、弊社のビジネスパートナーである、ITコーディネータの野村先生をインタビューしました。

1. プロフェッショナル像とはどのようにお考えですか？

一言で申し上げますと、「先見力があり、感動できるサービスを提供する人」といえるでしょう。以前とある書評で「プロフェッショナル」について書かせていただいたことがあります。そこに掲載したプロフェッショナルの定義の中で「有資格者の世界において、プロとアマを分けるものこそ顧客主義」であり、Serviceの語源は「神に仕えること」としましたが、「プロのサービス」の意味は、「顧客に仕えること」に等しいと考えられます。顧客の「真の」要望を汲み取り、「仕える」ことの難しさは、これまでの経験の中で嫌というほど体験してきましたが、その困難に打ち勝ち、

感動できるサービスを提供できるまで、プロフェッショナルには程遠いのであると常に意識しております。

また、「先見力」については論理的な思考だけでは先読みの幅が小さく非論理的な思考が必要であると考えています。

2. 現在のお仕事を始められたきっかけについてお話を聞かせていただけませんか？

正直申し上げますと資格には全く興味がなかったのですが、大きなプロジェクトが一段落したときに新聞でITC制度発足を知りました。とりあえず現場で培ったPM力を活かせると考え、受験し、合格しました。その後、ユニシスの社内ベンチャー制度で「ITCビジネスプラン」を作成したのがきっかけといえます。

3. 独立に対するご家族の反応はいかがでしたか？

もちろん、妻は心配していたと思いますが、ある程度のネットワークを作ったうえでの独立でしたので、反対を受けたという印象はありません。

サラリーマン時代と比べ、今は自宅で作業をする時間が長いので、家族と接する時間は格段に増え、結果的によかったのではないかと思います。ただ、仕事中に夏休み中の子供に遊んでほしいと言われることもありますので、その時は割り切って遊ぶようにしています。（笑）

4. お客様からの感じる一番のニーズは何ですか？

会社経営者、幹部の頭の中を整理するというコンサルは、一番ニーズが高いと思います。

～ITコーディネータの業務とは？～

ITコーディネータ（以下、ITCと呼ぶ）とは、企業の戦略的なIT化を推進する国家プロジェクトの一環として誕生した日本で唯一の資格認定制度です。

企業にとって戦略的IT投資が重要な経営戦略として位置づけられる中、ITユーザーとITベンダー（開発）の双方の立場を理解し、経営者の立場から「真に経営に役立つIT投資」をサポートできる人材が必要不可欠なものとなっています。

ITCは、経営とITの両面に精通し、企業経営に最適なIT投資を支援することができるプロフェッショナルです。



俗にいうエグゼクティブコーチングで、耳を傾けながら、経営判断するための材料、戦術のアイデアを少し（適度な量が望ましい）出して欲しいと思われています。（右図はその一例）

また中小企業支援機関は中小企業からのIT活用相談に真摯に取り組んでほしいという要望は強いです。特に地方（千葉では南房総など）では情報格差、リテラシー格差は、広がる一方なので、支援ニーズは高く、そのコスト負担については、国や県へのニーズとなっています。

## 5. これまでに成功・苦勞された印象的な案件などはありますか？

一言で申し上げますと、「成功した案件なし、苦勞しない案件なし」です。長期的に顧客企業、経営者、関連機関が成長しないと成功案件ではないので、評価が困難といえます。そして、プロジェクト成功のためには、顧客の協力が必ず必要です。成功する顧客は成功するまでやり抜くと認識しています。

この辺りが、ベンダー内PMからIT経営コンサルタントへ変わった後の、大きな違いです。サラリーマン時代は自分が担当するプロジェクトが予算内で無事本番を迎えると成功と考えていました。

ただ、信頼を勝ち得た案件（コンサルだけでなく、スキーム作り、研修やセミナー講師など、すべて）は、中間的な小さな成功と呼べるかもしれません。また、苦勞する案件として顕著なのが、対等な複数のITCでコンサルするケースです。

それぞれ進め方がユニークなので、歩調を合わせるのには、本当に難しいと思っています…

## ブレイン編集担当者より

ご協力頂き、誠にありがとうございました。

野村先生はIT化支援プロジェクトの第一線でご活躍されていますが、ITだけに留まらず、会社経営全般に関するコンサルティング、セミナー（右記参照）や執筆活動等、幅広く事業を展開されています。

今回のインタビューではIT経営を推進していく上での苦勞されたお話や、新しいシステムの推進（右記参照）について、また、中小企業の経営課題といった弊社のサービスと共通する貴重なお話を伺うことができ、非常に勉強になりました。

IT化とは、単なるソフト・ハードの導入ではなく業務を変革するチャンスといえます。上記右図でご紹介しました、先生の得意とするサービスの一つであるIT経営成熟度診断とは、診断を行うことで見えてくる「経営課題」に対し、その解決にむけてIT導入を検討するものです。経営改善やIT化について漠然としたお悩みやご希望をお持ちの方は、一度この診断をお試してみたいかがでしょうか。

※IT経営成熟度診断セットは研修を受けたITCと企業の経営幹部からなる診断チームにより、診断作業を進めていきます。

## 6. 最後になりますが、今後のビジネスモデルについてどのようにお考えですか？

日本の情報産業業界の一員としての責務を感じるところもあり、微力ながら推進しています。ITベンダー支援も千葉県RIPs（地域イノベーションパートナーシップ）事業をはじめとして、ITCの視点から協力を始めています。その中で全国のITC連携、首都圏のITC連携、金融機関やITC協会、各土族等との連携を継続し、ネットワークで解決するスタイルをモデル化していきたいと考えています。

また、現在いくつかの顧客と顧問契約を結びIT・経営全般に関する支援業務を行っていますが、ゆくゆくは長年勤めたベンダー時代に培った金融機関に対する知識を活かし、地域金融機関のIT経営支援をビジネスとして展開していきたいと考えています。そして、事業規模を拡大していく中で、法人成り等、自らの経営に対しても積極的にチャレンジしていこうと考えています。

## 「SaaS/ASP」活用セミナー 県内・中小企業に役立つ「クラウド」とは？

平成21年 10月14日（水）参加無料  
セミナー 13:30~16:00 個別相談 16:00~17:00

### 【セミナー内容】

- ① SaaS/ASPの特徴と選定のポイント
- ② クラウドコンピューティングの衝撃  
ITコーディネータ 野村 真実
- ③ 自社HP・社内システムのクラウド活用

場所：千葉市ビジネス支援センター会議室1  
千葉県千葉市中央区中央4-5-1

主催：関東経済産業局

協力機関：千葉IT経営支援有限責任事業組合

SaaSやASP、クラウドコンピューティングという言葉が、テレビ番組や紙面などで目や耳にすることが多くなっています。このクラウド（SaaS/ASP）が引き起こす企業経営へのインパクトについて野村先生がセミナーで解説されます。